

第1回「富山県防災・危機管理センター（仮称）基本計画検討委員会・幹事会  
合同会議」の開催結果について

1 概要

- (1) 日 時 平成30年6月14日（木）10時30分～11時50分
- (2) 場 所 富山県民会館611号室
- (3) 出席者 室崎 益輝委員長（兵庫県立大学）ほか委員5名、幹事10名  
（別紙名簿のとおり）
- (4) 議 事 ①防災・危機管理センター（仮称）の整備について  
②防災・危機管理センター（仮称）基本計画（素案）について

2 主な意見等

(1) 整備場所について

- ・整備にあたっては、長期的な視点から県庁の将来構想を考えながら進めるべき。
- ・南別館を改修する場合、松川側のにぎわいや人が誘われる魅力づくりにも配慮すればよい。
- ・工夫して景観に配慮してほしい。
- ・C案（南別館全体で整備）を検討すべきといった意見もあったが、コストや工期、県庁の業務執行体制を考慮するとE案（南別館東側での整備）が現実的。
- ・最終的にはE案でもよいが、D案（南別館西側での整備）についても、もう一度検討してもらいたい。
- ・今後、情報収集のための設備や関係機関執務室の規模など幹事会で具体的に検討する中で、他の案との比較も整理されたい。

(2) 非常時の活用について

- ・大規模災害等の発生に備えて、できるだけ速やかに整備することが必要。安全が優先。
- ・非常時には、県と関係市町村等が円滑に連携できる機能をもった施設となることを期待。緊急時のオペレーション機能についても検討してもらいたい。
- ・各機関のリエゾンがセンターに詰めて、すぐに現場に指示を出せるようなスペースが必要。
- ・災害時の移動手段等としてヘリポートがあるとよい。
- ・災害時に情報がきちんと伝わるようシステム・配線の二重化の確保が必要。
- ・災害時は、松川側の一方通行を解消するなど、交通アクセス機能も整理すればよい。

(3) 平常時の活用について

- ・平時の活用方法が大切。特に、富山県広域消防防災センターとの連携、役割分担を整理し、両輪として活用できるよう工夫すべき。
- ・研修や訓練、交流スペースなどは、県民・市民の防災行動に結びつけられる具体的なものがあるとよい。
- ・水やスポーツドリンク、栄養補助食品の災害対応型自動販売機を設置してはどうか。